

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 11 号

平成 15 年 3 月 20 日

発行所 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

ビリー・グラハム「きょうのみことば」より (7)

10月23日

私の父が私に王権を与えてくださったように、私もあなたがた
に王権を与えます。 (ルカ 22・29)

多くの人々が、「天国はどこにあるのですか」と尋ねる。聖書には、天国がどこにあるかについて、記されてはいない。ある研究者達は、いくつかの聖句を総合して、天国が北にあるという。彼らは、詩篇 48・2、「全地の喜びは……北の端にある」(英訳)を、引用するのであろう。磁針は、北を指している。ひょっとすると、天の都は、北にあるのかもしれない。私たちには、わからない。けれども、天国がどこにあるとしても、それは、キリストがおられるところである。多くの人々が、「あなたは、天国が文字通りの場所であることを信じていますか」と尋ねる。私は、確かに信じている。イエスは、「あなた方のために、私は場所を備えに行くのです」と言われた。聖書は、エノクとエリヤが、文字通りのからだで、文字通りの場所 ロスアンジェルス、ロンドン、アルジェなどと同じ現実の場所に上がったと、教えている！聖書はまた、天国が美しい場所であると、教えている。それは、聖書の中に、「神の下さる建物」、「都」、「さらに優れた故郷」、「資産」、「栄光」として、述べられている。聖書はまた、天国が、素晴らしい英知の場所、私たちがこの地上では決して学び得なかった事柄に関する知識のある場所であることも示している。

11月1日

「なぜこんなことをするのか、今はわからないだろうね。だが、
あとでわかるよ。」 (ヨハネ13・7)

身体的な病気は、その人に起る最悪のものではない。このことを、あなたに思い出していただきたいと思う。私がこれまでに出会った、最もひねくれた、最も惨めな人々のうち幾人かは、身体的なハンディキャップを背負ってはいなかったからである。世界で最も偉大な、そして最も有用な人々のうち幾人かは、確かにハンディキャップを持っている。「メサイア」は、ヘンデルによって作曲されたが、彼は、右半身と右腕の麻痺に苦しんでいたのである。カサリン・ブースは、晩年において、苦痛から解放された日は一日もなかったと言う。ヘレン・ケラーは、「私のハンディキャップを神に感謝します。なぜなら、私はそれらのハンディキャップをとおして、私自身を私の仕事をそして神を、見いだしたからです」と書いている。私がこれまでに出会った最も輝かしいクリスチャンのうち幾人かは、「車椅子」の聖徒であった。どうか神が、「苦難の中において勝利を得る」恵みをあなたに与えてくださるように。

11月2日

兄弟よりも親密な者（友人）もいる。 （箴言 18・24）

今日、何と多くの寂しい人々がいることだろうか！ 神は、人間を、みじめな内的寂しさの内に生きるように、創造されたのではなかった。あの最初のエデンの園において、神は、ご自身が創造された人間を寂しさから守るために、下って来られたのである、イエスがご自身の弟子達に言われた最も励ましになるお言葉の一つは、「見よ。私は、世の終わりまで、いつも、あなた方とともにいます」（マタイ 28・20）であった。彼は、人間と神の間の交わりを回復し、人間の寂しさを取り去るために、おいでになったのである。イエス・キリストは、あなたのたましいから寂しさを取り去ってくださる。彼は、あなたの仲間、あなたの友となってくださるのである。

11月12日

あなた方は、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。 (ヨハネ 16・33)

あなたは、安易な道を、期待すべきではない。なぜなら、もしそうするなら、あなたは確実に、失望することになるからである。いやしくも聖霊を知っている人なら、クリスチャン生活が、競技あるいは戦いにたとえられており、それらのどちらもたやすいものでないことを、知っているはずである。そしてそれは、確かに、安易な道のことを言っておられるのではない。しかし、犠牲なしには、何も、良いものが与えられることはありえない。クリスチャン生活は、この上なく、満ち足りたものである。しかし、それは、私たちが現実、私たちが自身をささげ尽くしたときのみである。人生がみじめであると感じているのは、妥協しようとするクリスチャンである。なぜなら、彼は、明け渡しによってもたらされる交わりなしに、あらゆる問題をかかえ込んでいるからである。キリストは、あらゆる試練、あらゆるテストの一つ一つに対して、それに耐えるための豊かな恵みを供給してくださっている。そして私たちは、弱さの中にあって強くされるからである。

11月14日

私と私の家とは、主に仕える。

(ヨシュア 24・15)

どのような社会でも、その基本的な単位は、家庭である。家庭が支離滅裂になり始めると、社会は、崩壊への道をたどるものである。しかし幾千という家庭が、難破寸前の状態にある。多くのカップルが、いつの日にか自分たちの家庭も壊れるのではないかと、恐れている。けれども家庭の一致と幸福を保証するためにあなたがたがかかることのできる一つの偉大な保険あるのである。それは簡単なことで、キリストをあなたの家庭の中心とすることである。家庭は、太陽系のようなもので、中心である偉大な太陽が、太陽系を結合しているのである。もし太陽がないならば、太陽系は、四散してしまうことであろう。神の御子があなたの家庭の中心に置かれているのでなければ、あなたの家庭もまた、四散してしまうかもしれないのである。

11月21日

イエスの御名によっていのちを得るためである。(ヨハネ 20・31)

「人生には、生きる価値があるのであろうか。」多くの人々にとって、人生は生きる価値のないものとなっている。しかし私は、あなたがたすべてに、良い知らせを持っている。神はあなたを、むなしく心の平安を求め、敗北し、落胆し、欲求不満に陥った、さまようたましいとして創造されたのではないのである。彼は、あなたのための、さらに大きな計画を持っておられる。彼は、あなたのために、さらに大きな活動領域と人生を用意しておられるのである。あなたの問題　それがどんなに大きなものであろうと　に対する解答は、あなたの聖書の中にあり、一年生の算数のように簡単であり、あなたの心臓の鼓動のようにリアルである。神のことばである聖書によって、私はあなたに告げる。キリストは、人類を悩ませているあらゆる不可解な難問題の一つ一つに対する解答であられると。彼の内に、心配に対する救済策、死別に対する慰め、私たちの心痛に対するいやし、私たちの不満に対する満たしが見出されるのである。

1 2月5日

私が主を求めると、主は答えてくださった。私をすべての恐怖から救い出してくださいました。
(詩篇 34・4)

人間は常に、心配事につきまとわれている。そして、現代生活の圧迫は、その問題をさらに悪化させている。あらゆる時代の人々に対して、イエスは、「だから、明日のための心配は無用です。……神の国とその義をまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらすべてのものはすべて与えられます」(マタイ 6・33, 34)と言われた。あなたがたの多くは、数え切れない苦悩に満たされている。信仰によって、それらをイエス・キリストに持って行くがよい。彼は、あなたのたましいと思いに、平安を与えてくださるであろう。

1 2月7日

私たちは、完全な確信と信頼をいただいて主の前に出ることが出来ます。
(ヨハネ 3・21)

聖書は、信仰が、それ自身を三つの仕方で表すと教えている。それはまずあなたが信じている教理と、神と教会との交わりである礼拝と、あなたが生きそして振舞っている道徳において、表すという。聖書はまた、信仰は、あなたの救いのためにキリストに信頼するだけでは十分でないと教えている。信仰は継続し成長するものである。それは、最初は弱いものであるかもしれないが、あなたが聖書を読み、祈り、教会へ行き、あなたのクリスチャン生活における神の忠実さを経験し始めるにつれて、強くなるのである。あなたは、あらゆる必要や、あらゆる事態、あらゆる試練に対処するために、ますますキリストにより頼む方法を学ぶ必要があるのである。

1 2月8日

ですから、私たちは……大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。
(ヘブル 4・16)

祈りは、わかりやすく言えば、あなたと神との間の相互的な会話である。しかし多くの人々が、ひどいストレスや危険や不安に圧倒されるときにのみ、祈っている。私が飛行機に乗っていたとき、エンジンが止まったことがあった。すると、人々は祈り始めたのである。私は、兵士達と話し合ったことがあるが、彼らは、戦いがたけなわにならなければ決して祈らないと、言っていた。人間には、困ると祈る本能があるようである。私たちは、「たこつぼ壕の中には、無神論者はいない」ということを、知っている。しかし、私たちの日常生活に到達しないようなキリスト教は、決して、この世を変えることはないのである。祈る力を育てよ。人は祈っている時の方が、この上なく強力なピストルを構えている時よりも強いのである。国民は、一致団結して熱心に神に祈っている時の方が、その資力を防衛用の兵器につき込んでいるときよりも、強いのである。私たちのすべての問題に対する答えは、全能の神に接することによって与えられるものである。

12月16日

あなたがたが同じような苦しい境遇に立たされたとき、神様の
慰めが、どれほど優しいものであるかを……。(コリント 1・7)

「なぜ正しい者が苦しまなければならないのか。」この問題は、時間と同様に古くからある。私たちが解答を見出し得るものがただ一つある。それは、ほかならない聖書である。「なぜ罪人たちは、不運と苦悩に遭遇するのか。」この理由を知るのに、あなたは、長い間、聖書を研究しなくてもよいのである。彼らは、神から離れている。彼らの悲しみは、彼らの罪の結果である。しかしなぜ、クリスチャンも、苦しむのであろうか。聖書は、多くのクリスチャンが、悩みの中にある他の人々に同情できるために苦しむと、教えている。悲しみと苦しみを知っている者のみが、悩みの中にあるものに同情することができるからである。神のことばである聖書はまた、クリスチャンたちが、彼らの生活において神の栄光を現すために苦しむと、教えている。聖書はさらに、クリスチャンたちは、神が祈ることを彼らに教えるために苦しむと、教えている。さらに彼らは、神が彼らを悔い改めに導かれるために、苦しむのである。